

令和2年度札幌市子ども・子育てに関する 市民アンケート調査 報告書（概要版）

1. 調査の目的

札幌市では、「子どもの権利に関する推進計画」や子ども・子育て支援法に基づく「市町村子ども・子育て支援事業計画」を包含する「第4次さっぽろ子ども未来プラン」（計画期間：令和2年度～令和6年度）を策定し、計画全体の成果指標のほか、4つの基本目標ごとに進捗状況を管理・分析するために必要となる指標を設定している。

本調査は、プランの進捗管理に必要な数値の確認と、子ども・子育て世帯の状況や抱える問題点等を把握し、今後の子ども・子育て施策に活用するために実施した。

2. 調査の実施内容

(1) 子育てに関する市民アンケート調査

項目	内容
対象者	住民基本台帳から無作為に抽出した、0～5歳の子どもがいる世帯（保護者）3,000人
調査手法	郵送アンケート調査（郵送発送、回収）。WEBアンケートフォーム、Eメールによる回答も可。
調査期間	令和2年12月1日（火）～令和2年12月16日（水）
回収状況	1,650件（回収率55.0%）

(2) 子どもに関する意識調査

項目	内容
対象者	住民基本台帳から無作為に抽出した、10～18歳の子ども2,000人（調査票は10～12歳用と13～18歳用の2種類を作成）
実施方法	郵送アンケート調査
調査期間	令和2年12月1日（火）～令和2年12月16日（水）
回収状況	889件（回収率44.5%） 10～12歳：373件（53.3%）13～18歳：516件（39.7%）

目 次

1. 子育てに関する市民アンケート調査

- (1) 調査回答世帯の状況 p. 1
- (2) 仕事と子育ての両立 p. 5
- (3) 子育ての楽しさと大変さ p. 8
- (4) 子育ての悩み p. 9
- (5) 子どもを生き育てやすい環境 p.10
- (6) 今後充実してほしい子育て支援策等 . . p.11
- (7) 父親の育児休業取得状況 p.12
- (8) 新型コロナウイルス感染症の影響 . . . p.14

2. 子どもに関する意識調査

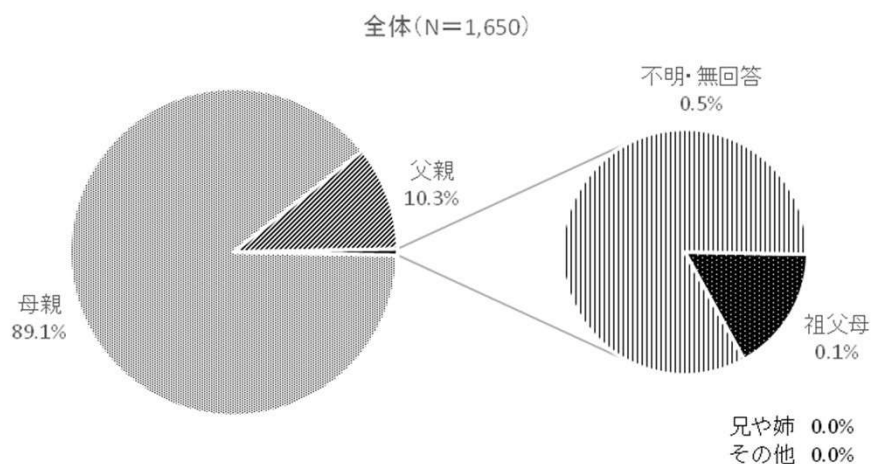
- (1) 調査回答者の状況 p.18
- (2) 自分自身のことについて p.19
- (3) 近所や地域とのつながりについて . . . p.20
- (4) 子どもの権利の認知度 p.21
- (5) 子どもの権利が大切にされている
と思うか p.22

1. 子育てに関する市民アンケート調査

(1) 調査回答世帯の状況①

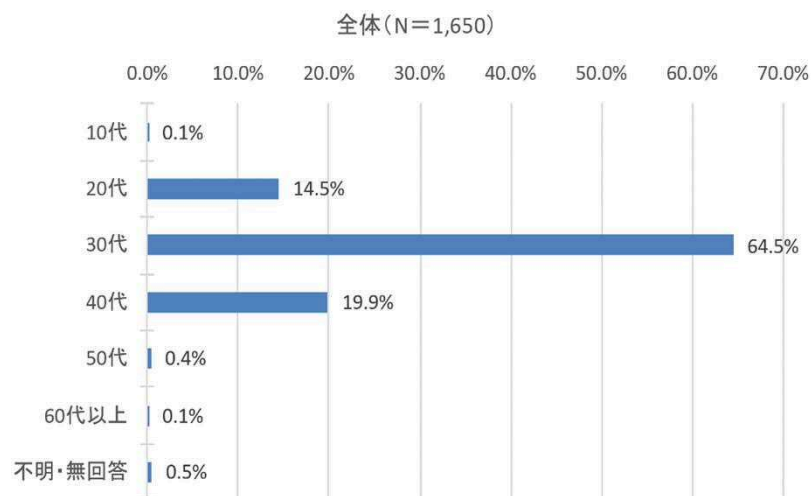
ア 調査票の回答者（問1(1)）

・調査票の回答者は、母親が89.1%と最も多く、次いで父親が10.3%となっている。



イ 回答者の年代（問1(2)）

・調査票の回答者の年代は、30代が64.5%と最も多く、次いで40代が19.9%、20代が14.5%となっている。



1. 子育てに関する市民アンケート調査

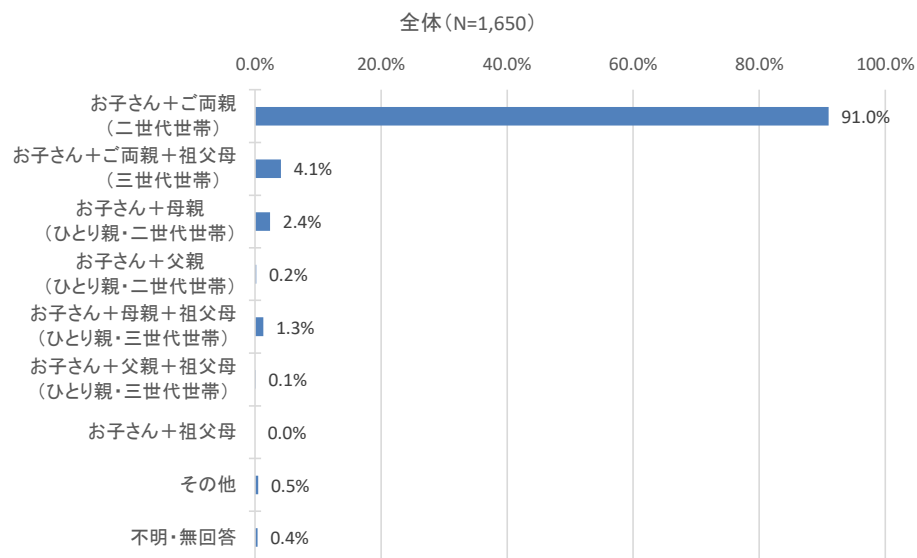
《キーワード》

ひとり親世帯の低い年収

(1) 調査回答世帯の状況②

ウ 世帯構成 (問6)

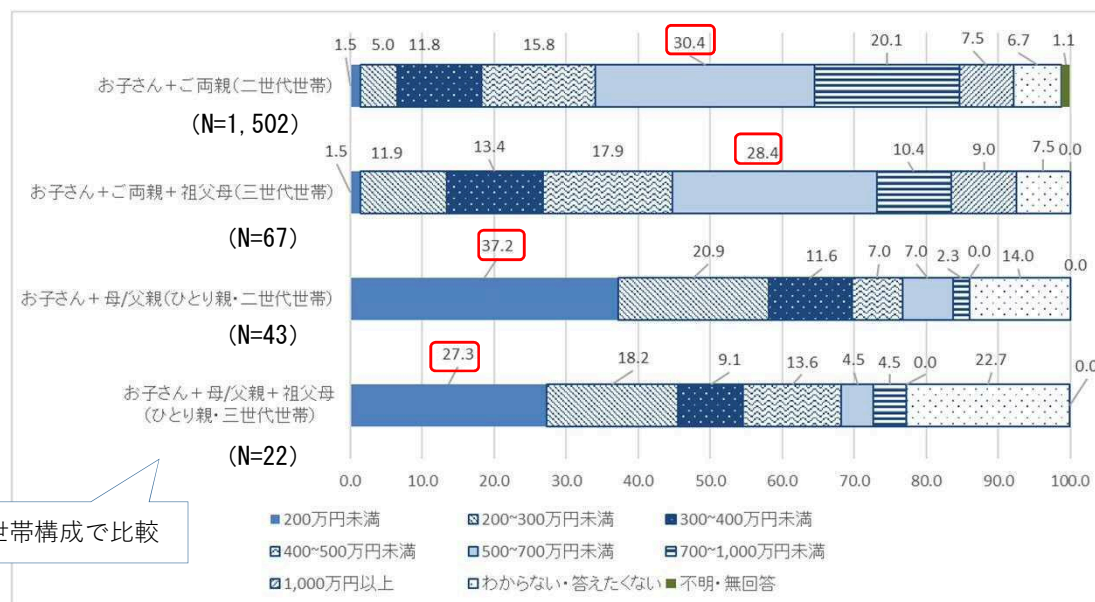
- ・世帯構成は、「お子さん+ご両親」(二世帯世帯)が91.0%と最も多く、「お子さん+ご両親(父のみ・母のみを含む)+祖父母」の三世帯世帯は5.4%となっている。



エ 世帯年収 (問2)

【クロス集計】世帯構成 (問6)

- ・世帯年収は、二世帯世帯・三世帯世帯ともに「500万円以上700万円未満」が最も多くなっている。
- ・ひとり親世帯(二世帯世帯・三世帯世帯ともに)は、「200万円未満」が最も多くなっている。

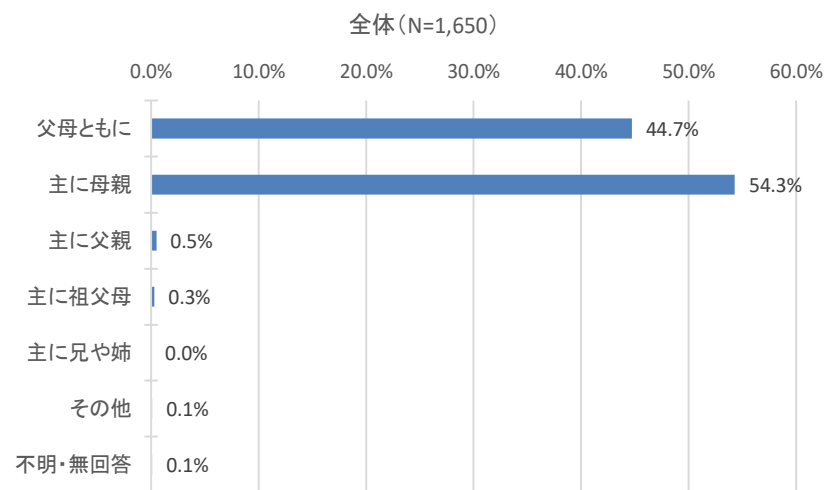


1. 子育てに関する市民アンケート調査

(1) 調査回答世帯の状況③

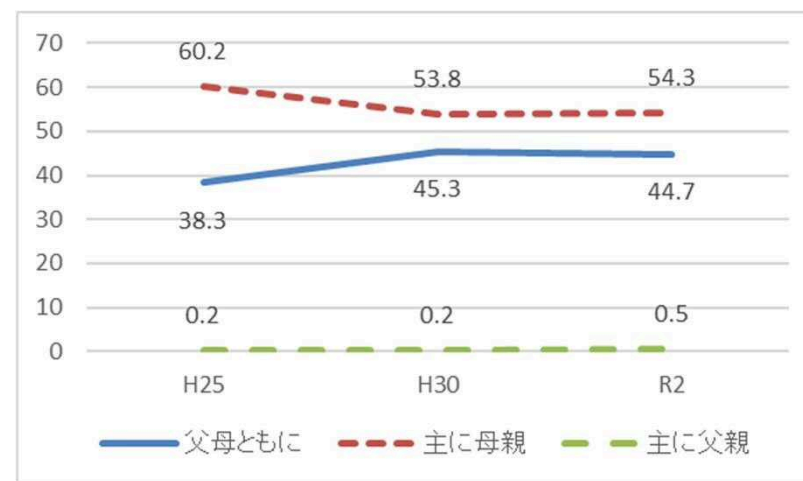
オ 家事や育児の担い手（問7）

・家事や育児の主な担い手は、「主に母親」が54.3%と最も多く、次いで、「父母ともに」が44.7%となっている。



【年度比較（H25・H30・R2）】

・H25の調査と比べて、父母がともに家事や育児を担っている割合は増加している。
(H25: 38.3%、H30: 45.3%、R2: 44.7% (7年間で+6.4%))



(H25) N=6,208 (H30) N=6,116 (R2) N=1,650

1. 子育てに関する市民アンケート調査

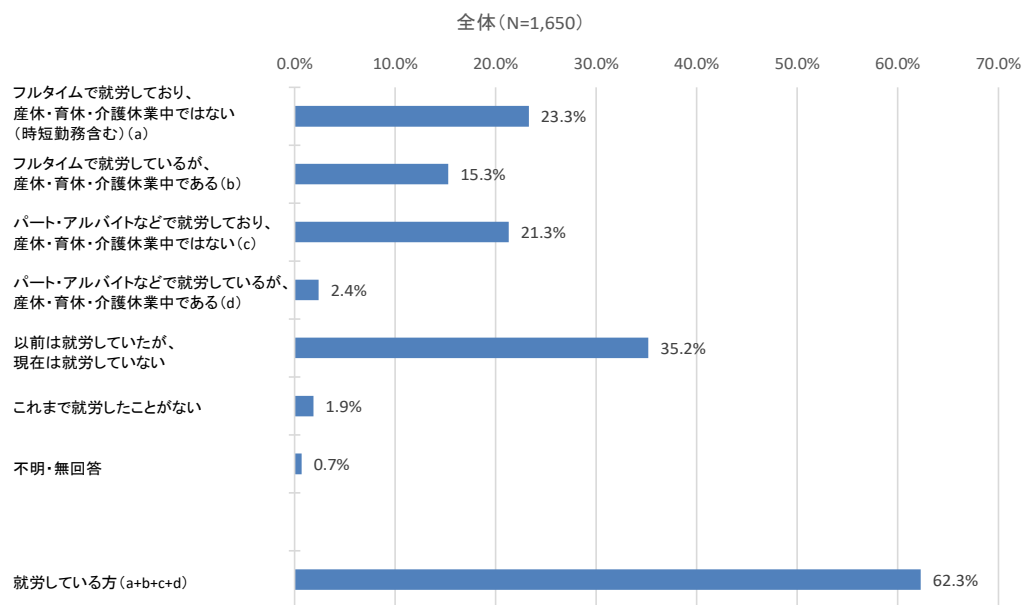
《キーワード》

働く母親の増加

(1) 調査回答世帯の状況④

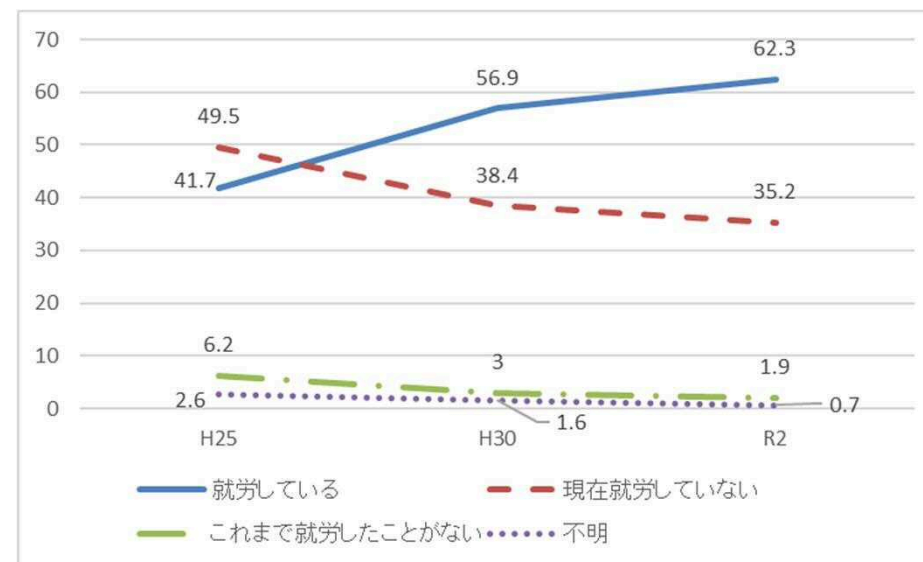
カ 母親の就労状況（問9(1)）

・母親の現在の就労状況については、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が35.2%で最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(23.3%)となっている。



【年度比較（H25・H30・R2）】

・過去の調査と比べて、母親がフルタイム、パート・アルバイトなどで就労(休業中を含む)している割合は大幅に増加している。(H25:41.7%、H30:56.9%、R2:62.3%(7年間で+20.6%))



(H25) N=6,208 (H30) N=6,116 (R2) N=1,650

1. 子育てに関する市民アンケート調査

《キーワード》

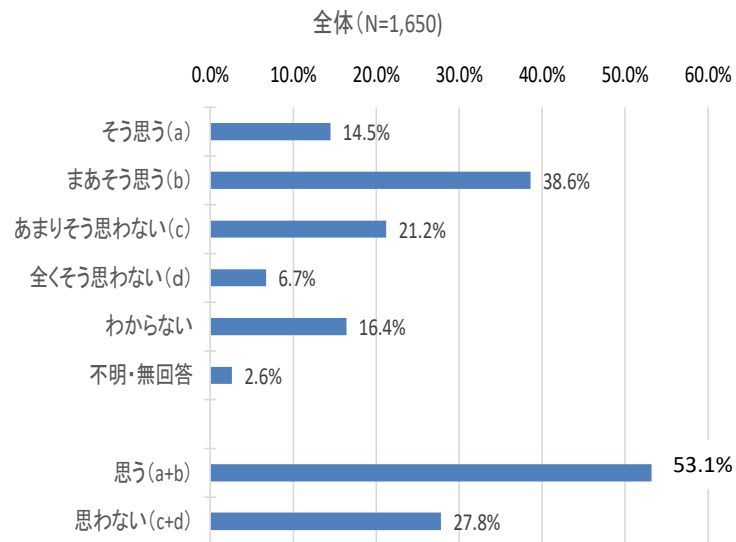
仕事と子育ての両立

家庭内の家事・育児の分担

(2) 仕事と子育ての両立①（問12関係）

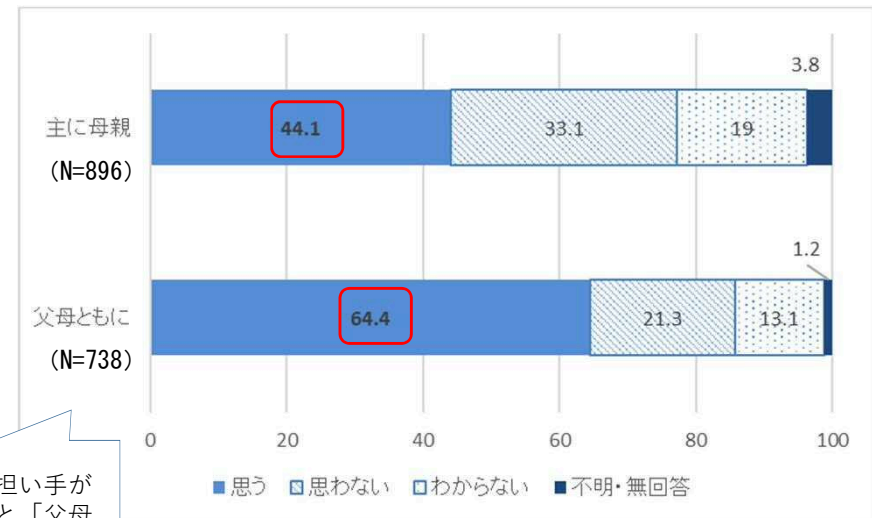
ア 仕事と子育ての両立に調和がとれていると思うか

・仕事と子育ての両立について、調和がとれていると『思う』（「そう思う」+「まあそう思う」）と回答した世帯は、53.1%となっている。



イ 仕事と子育ての両立に調和がとれていると思うか【クロス集計】家事や育児の担い手（問7）

・子育ての担い手が、「父母ともに」と回答した世帯は、「主に母親」と答えた世帯と比べて、調和がとれていると『思う』割合（左記a+b）が多くなっている(+20.3%)。



家事や育児の担い手が「主に母親」と「父母ともに」の世帯で比較

1. 子育てに関する市民アンケート調査

《キーワード》

子育ての相談先の確保

(2) 仕事と子育ての両立② (問12関係)

ウ 仕事と子育ての両立に調和がとれていると思うか

【クロス集計】子育てについて気軽に相談できる先《複数回答/抜粋》 (問15)



子育てについて気軽に相談できる先《抜粋》で比較

- ・子育てについて気軽に相談できる先について、「配偶者」、「子どもの祖父母などの親族」、「友人や知人」、「保育所などの保育士」、「幼稚園の教諭」、「かかりつけ医」と回答した世帯の半数以上は、子育ての両立に調和がとれていると『思う』（「そう思う」+「まあ思う」）と回答している。
- ・一方、子育てについて「気軽に相談できる先はない」と回答した世帯は、仕事と子育ての両立に調和がとれていると『思わない』（「あまりそう思わない」+「全くそう思わない」）の割合が59.4%となっている。

1. 子育てに関する市民アンケート調査

《キーワード》

働き方・
職場の理解

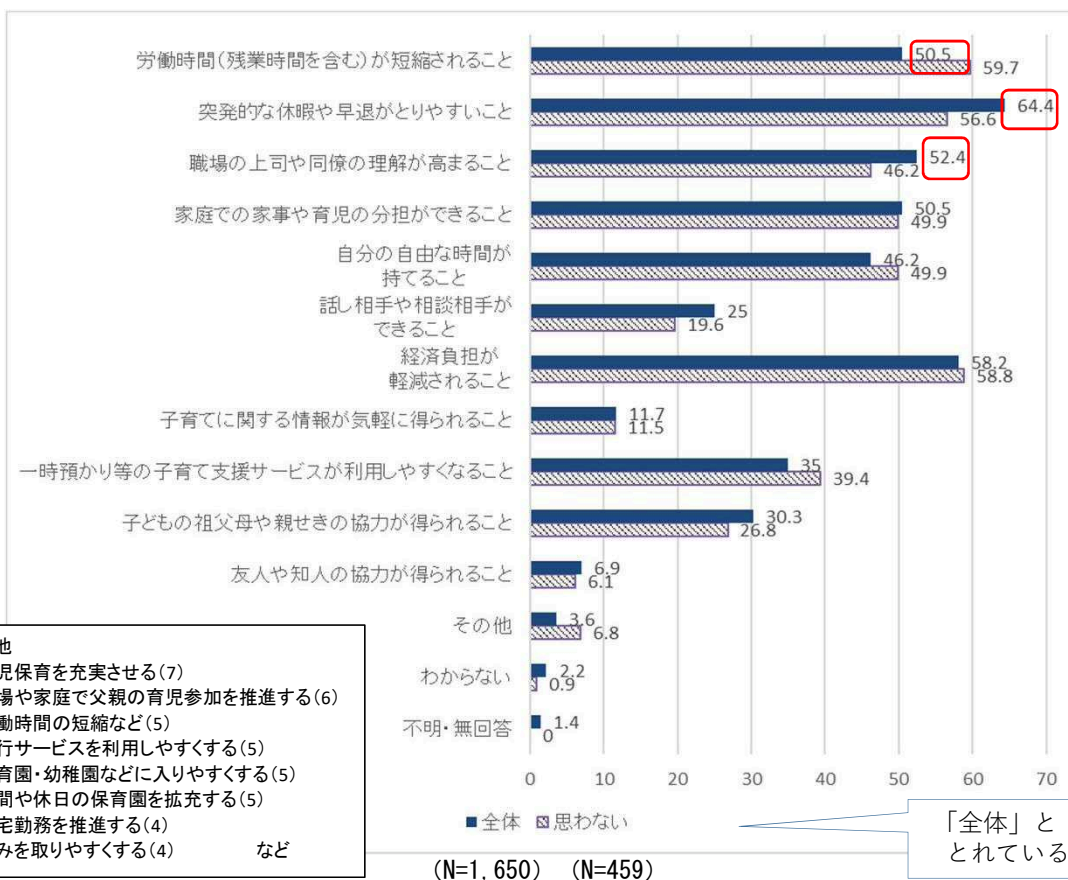
経済負担

(2) 仕事と子育ての両立③ (問12関係)

エ どうしたら、仕事と子育ての両立に調和がよりとれるようになるか《複数回答》

【クロス集計】仕事と子育ての両立に調和がとれていると思うか (問12(2))

※『思わない』(「あまり思わない」+「全く思わない」)を抜粋



- ・どうしたら、仕事と子育ての両立に調和がよりとれるようになるかについて、「突発的な休暇や早退がとりやすいこと」が64.4%と最も多く、次いで「経済負担が軽減されること」となっている。
- ・このほか、職場・働き方に関する項目(「職場の上司や同僚の理解が高まること」、「労働時間が短縮されること」は、いずれも50%以上の割合となっている。
- ・全体に比べて、仕事と子育ての両立に調和がとれていると『思わない』(「あまり思わない」+「全く思わない」)世帯の方が、「労働時間が短縮されること」(+9.2%)、「一時預かり等の子育て支援サービスが利用しやすくなること」(+4.4%)、「自分の自由な時間が持てること」(+3.7%)が多くなっている。

「全体」と「仕事と子育ての両立に調和がとれていると『思わない』世帯」で比較

1. 子育てに関する市民アンケート調査

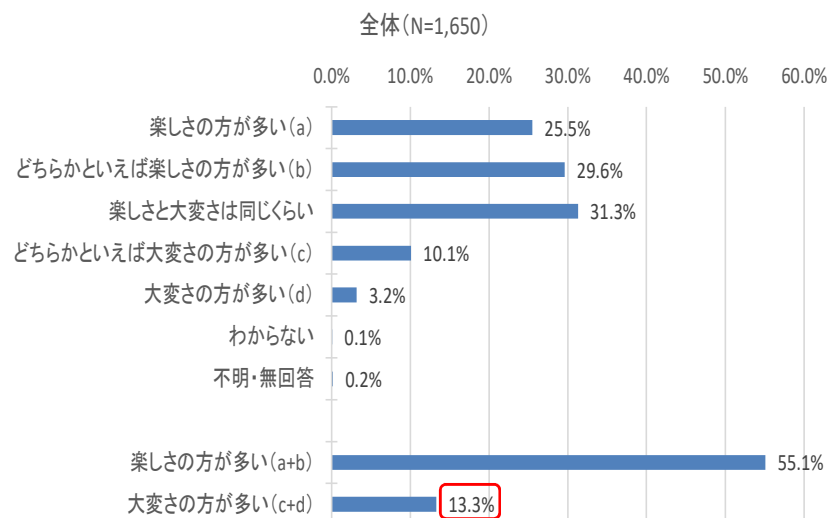
《キーワード》

ひとり親世帯の子育ての負担感

(3) 子育ての楽しさと大変さ（問17関係）

① 子育てをしていて楽しさと大変さのどちらを感じる人が多いか

・『楽しさの方が多い』（「楽しさの方が多い」+「どちらかといえば楽しさの方が多い」）が55.1%、『大変さの方が多い』（「大変さの方が多い」+「どちらかといえば大変さの方が多い」）が13.3%となっている。



② 子育てをしていて楽しさと大変さのどちらを感じる人が多いか

【クロス集計】世帯構成（問6）

・世帯構成別にみると、全体(13.3%)に比べて、ひとり親・二世帯世帯(30.2%)は、『大変さの方が多い』の回答が多くなっている(+16.9%)。

世帯構成で比較



1. 子育てに関する市民アンケート調査

《キーワード》

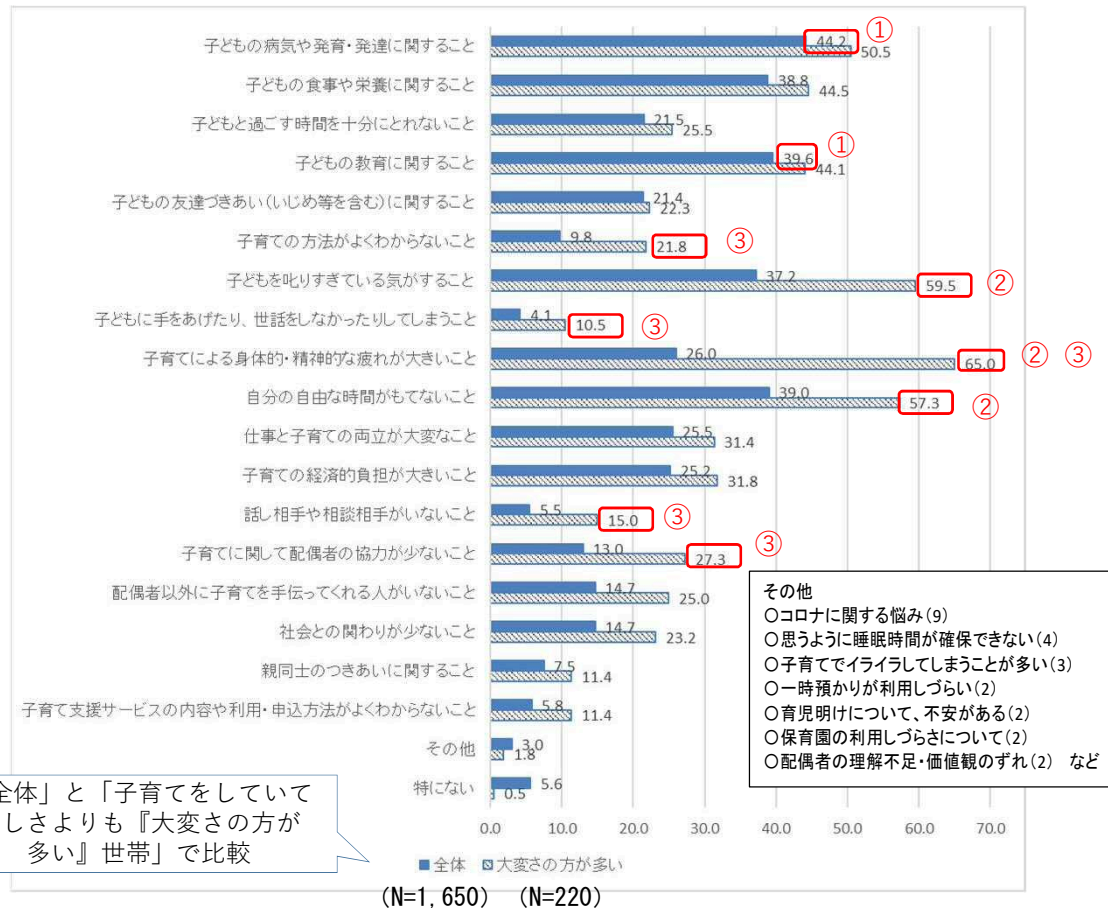
身体的・精神的な疲れ

孤独感

(4) 子育ての悩み（問18関係）《複数回答》

【クロス集計】子育てをしていて楽しさと大変さのどちらを感じる人が多いか（問17）

※『大変さの方が多い』（「どちらかといえば大変さの方が多い」+「大変さの方が多い」）を抜粋



「全体」と「子育てをしていて楽しさよりも『大変さの方が多い』世帯」で比較

- ・子育ての悩みについて、全体では、「子どもの病気や発育・発達に関する事」が44.2%と最も多く、次いで、「子どもの教育に関する事」(39.6%)となっている。①
- ・子育てをしていて楽しさよりも『大変さの方が多い』（「どちらかといえば大変さの方が多い」+「大変さの方が多い」）と感じる世帯の回答をみると、「子育てによる身体的・精神的な疲れが大きい事」が65.0%と最も多く、次いで「子どもを叱りすぎている気がする事」(59.5%)、「自分の自由な時間がもてない事」(57.3%)となっている。②
- ・子育てをしていて『大変さの方が多い』と感じる世帯は、全体に比べて、「子育てによる身体的・精神的な疲れが大きい事」、「子どもに手をあげたり、世話をしなかつたりしてしまう事」、「子育ての方法がよくわからない事」、「話し相手や相談相手がいらない事」、「子育てに関して配偶者の協力が少ない事」を選択した世帯の割合が、2倍以上となっている。③

1. 子育てに関する市民アンケート調査

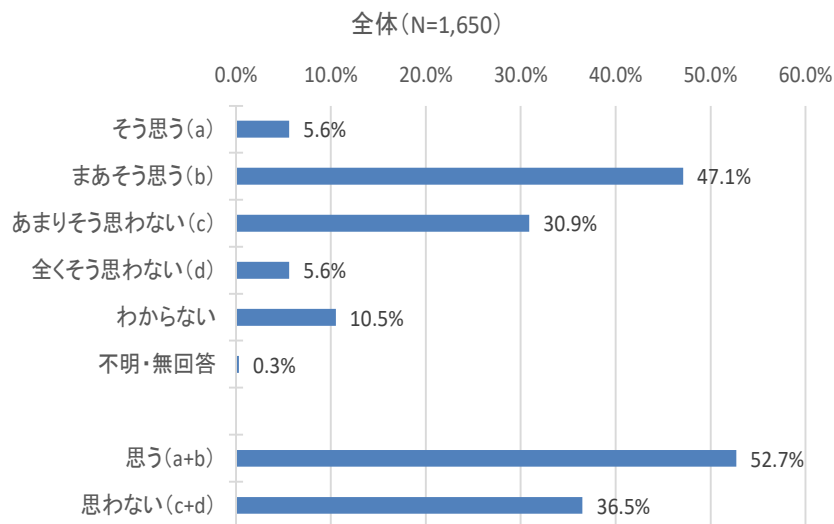
《キーワード》

希望する保育サービスの利用

(5) 子どもを生き育てやすい環境（問13関係）

① 札幌市が、子どもを生き育てやすい環境にあると思うか

・札幌市が、子どもを生き育てやすい環境にあると『思う』（「そう思う」+「まあそう思う」）が52.7%、『思わない』（「あまりそう思わない」+「全くそう思わない」）が36.5%となっている。

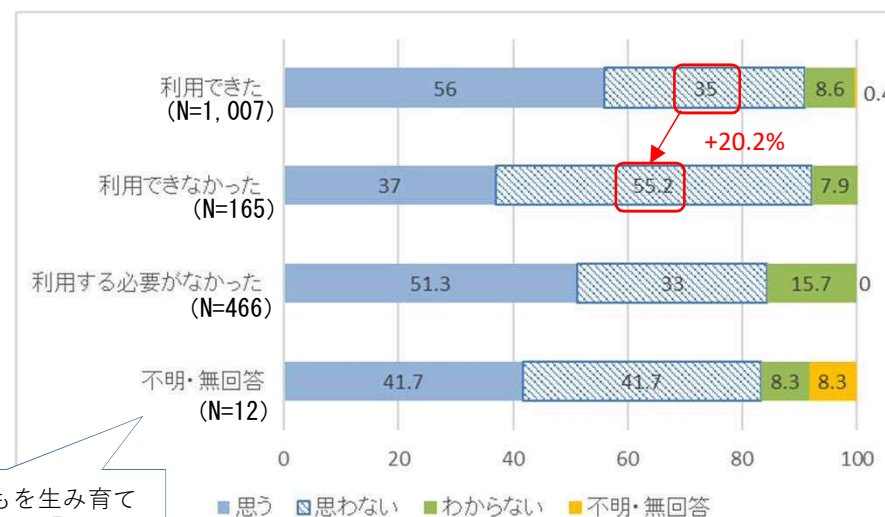


札幌市が、子どもを生き育てやすい環境にあると『思う』と『思わない』で比較

② 札幌市が、子どもを生き育てやすい環境にあると思うか 【クロス集計】希望に応じた保育サービス（※）を利用できたか（問19）

（※）幼稚園や保育園等への入園・入所、一時預かり事業等

・希望に応じた保育サービスを利用できなかった世帯は、利用できた世帯に比べて、子どもを生き育てやすい環境にあると『思わない』（「あまりそう思わない」+「全くそう思わない」）の割合が多くなっている(+20.2%)。

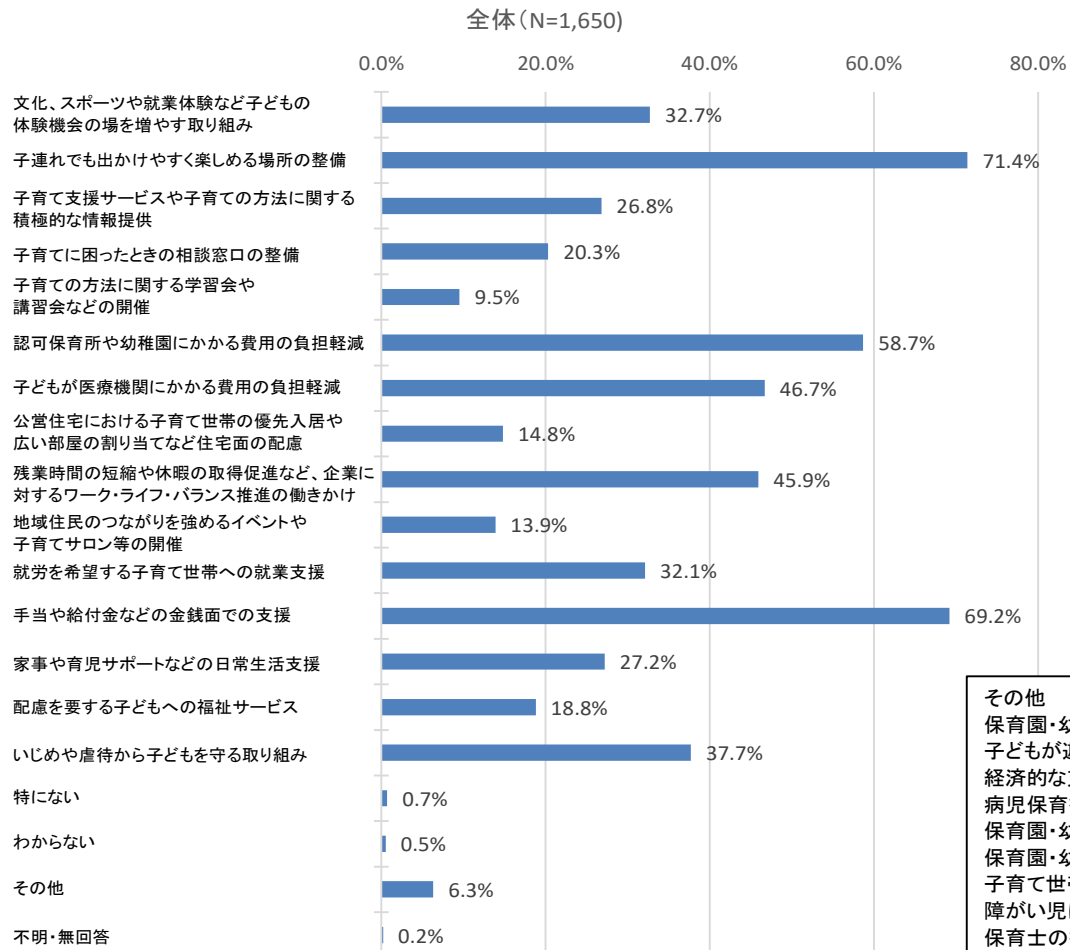


1. 子育てに関する市民アンケート調査

《キーワード》

子連れでも出かけやすく
楽しめる場所

(6) 今後充実してほしい子育て支援策等（問13(2)関係）《複数回答》



・今後充実してほしい子育て支援策について、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所の整備」が71.4%と最も多く、次いで、「手当や給付金などの金銭面での支援」、「認可保育所や幼稚園にかかる費用の負担軽減」となっている。

その他
 保育園・幼稚園などを増やす(26)
 子どもが遊べる施設の整備・増設など(8)
 経済的な支援を拡充する(8)
 病児保育を充実させる(6)
 保育園・幼稚園など、希望する施設に入れるようにする(5)
 保育園・幼稚園など、年度途中に入れるようにする(5)
 子育て世帯向けイベントを増やす(4)
 障がい児に対するサポートを増やす(4)
 保育士の待遇を改善する(4) など

1. 子育てに関する市民アンケート調査

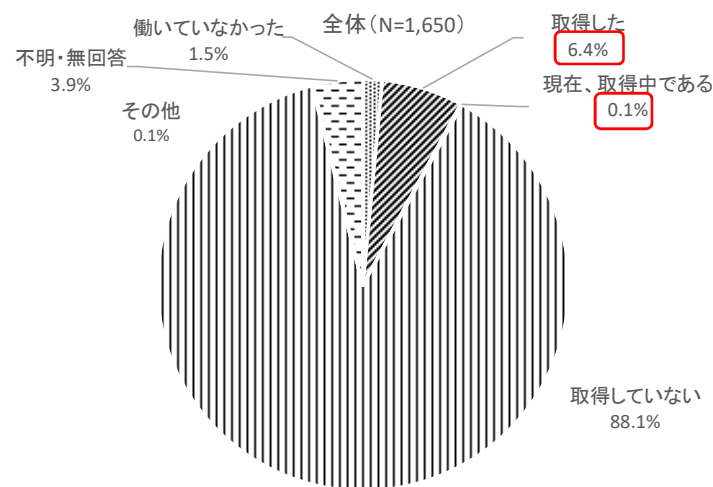
《キーワード》

父親の育児休業取得

(7) 父親の育児休業取得状況①（問20関係）

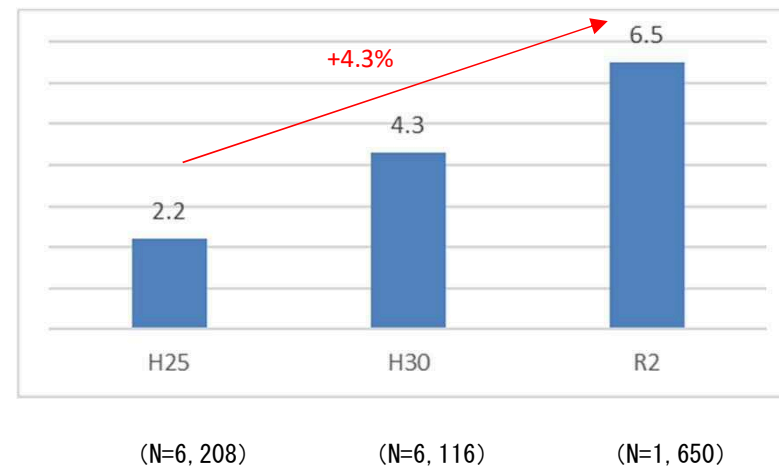
ア 父親の育児休業取得状況（問20-1）

・父親が育児休業を『取得した』（「取得した」+「現在、取得中である」）と回答した世帯は、6.5%となっている。



【年度比較（H25・H30・R2）】

・過去の調査と比べて、父親が育児休業を取得した（「取得した」「現在、取得中である」）と回答した世帯は、増加している。（H25: 2.2%、H30: 4.3%、R2: 6.5%（7年間で+4.3%））

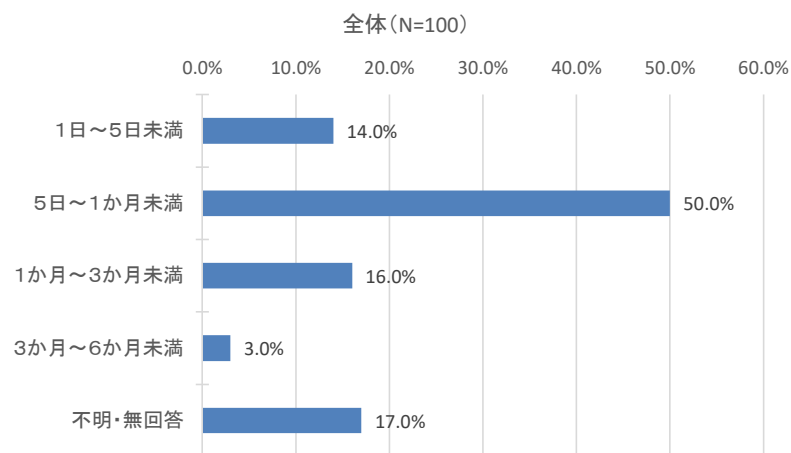


1. 子育てに関する市民アンケート調査

(7) 父親の育児休業取得状況②（問20関係）

イ 父親の育児休業取得期間（問20-3）

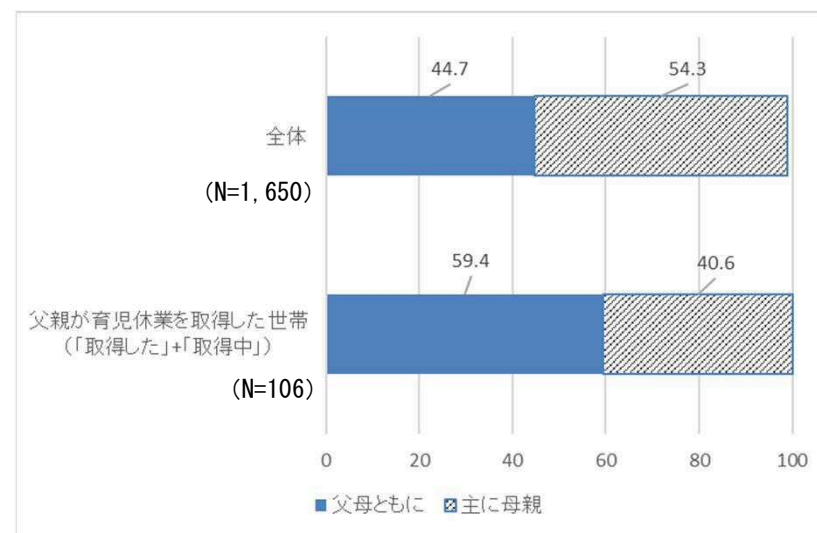
- ・男性の育児休業の取得期間について、「5日～1か月未満」が50.0%で最も多くなっている。
- ・6か月以上の取得は0%であった。



ウ 父親の育児休業取得期間

【クロス集計】家事や育児の担い手（問7）《項目抜粋》

- ・父親が育児休業を取得した世帯は、全体に比べて、家事や育児の担い手は「父母ともに」と回答した世帯が多くなっている(+14.7%)。

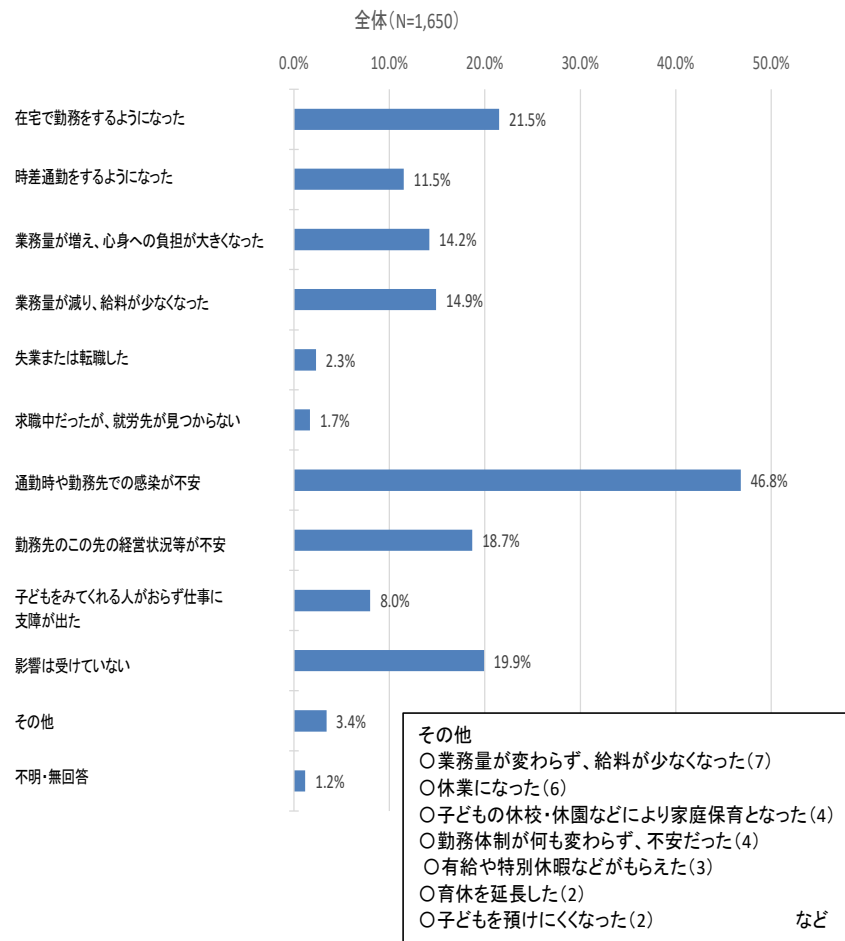


家事や育児の担い手が「主に母親」「父母ともに」の世帯で比較

1. 子育てに関する市民アンケート調査

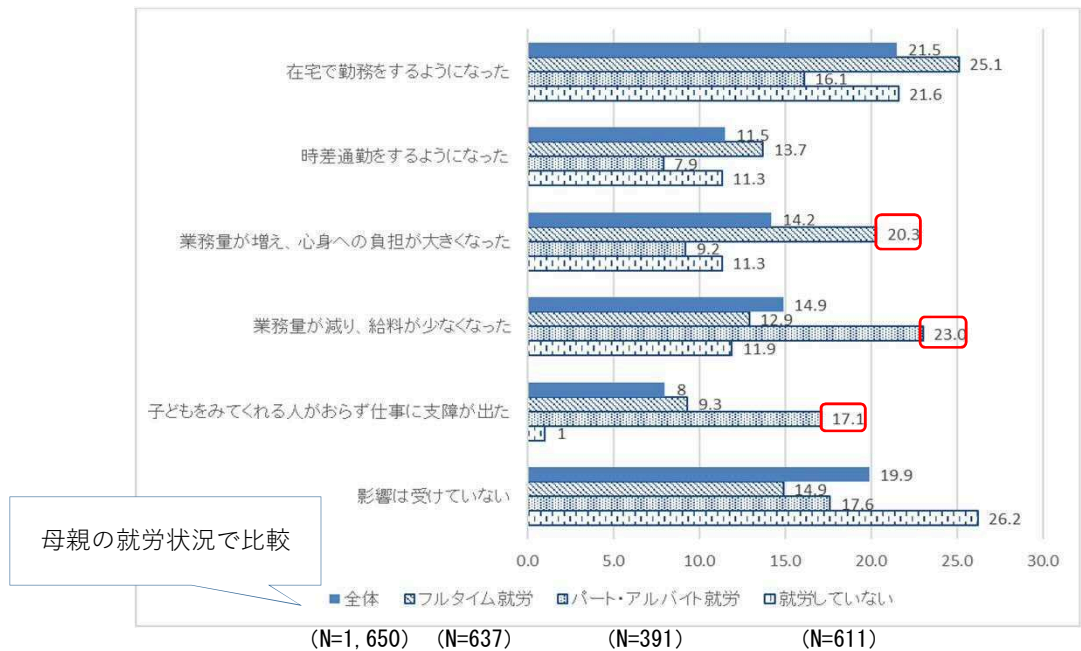
(8) 新型コロナウイルス感染症の影響①

ア 仕事の状況（問24(1)関係）《複数回答》



- ・新型コロナウイルス感染症の影響(仕事の状況)は、「通勤時や勤務先での感染が不安である」が46.8%と最も多く、次いで「在宅で勤務をするようになった」となっている。
- ・母親の就労状況別に見ると、フルタイム就労(産休・育休・介護休業中を含む)の世帯は、全体に比べて、「業務量が増え、心身への負担が大きくなった」(20.3%)の割合が多くなっている(+6.1%)。
- ・一方、パートタイム就労(産休・育休・介護休業中を含む)の世帯は、全体に比べて、「子どもをみてる人がおらず仕事に支障が出た」(+9.1%)、「業務量が減り、給料が少なくなった」の割合が多くなっている(+8.1%)。

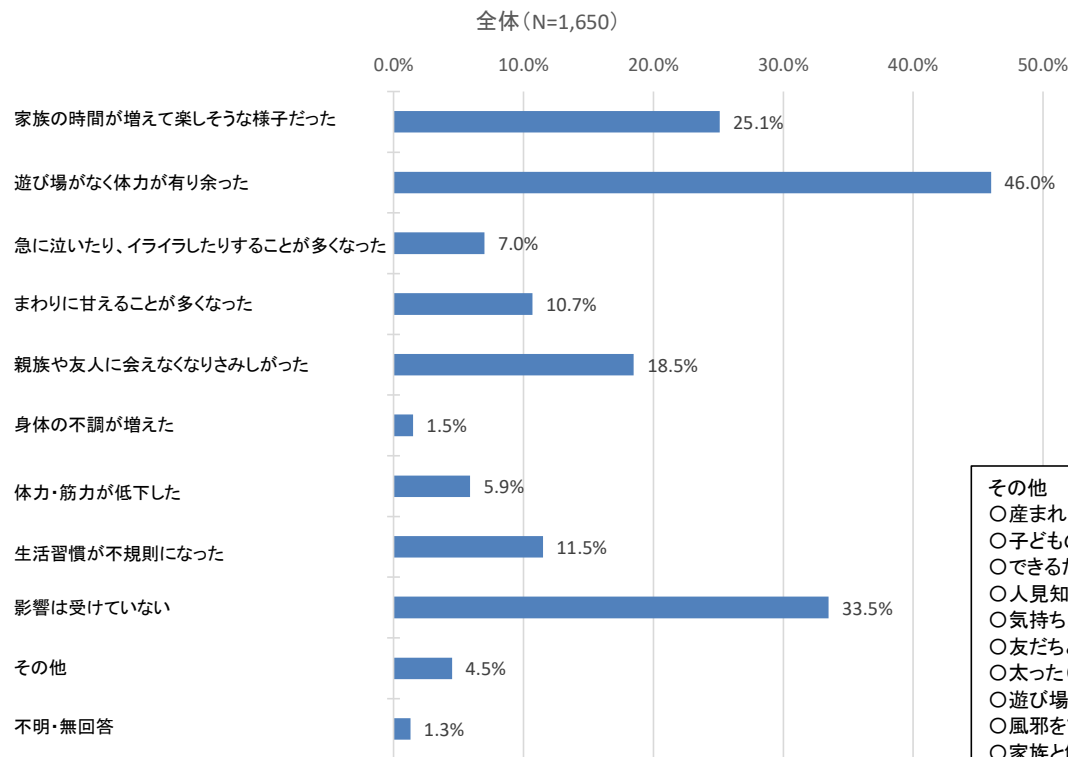
【クロス集計】母親の就労状況（問9(1)）《抜粋》



1. 子育てに関する市民アンケート調査

(8) 新型コロナウイルス感染症の影響③

ウ お子さんの状況（問24(3)関係）《複数回答》



・新型コロナウイルス感染症の影響(お子さんの状況)について、「遊び場がなく体力が有り余った」が46.0%と最も多くなっている。

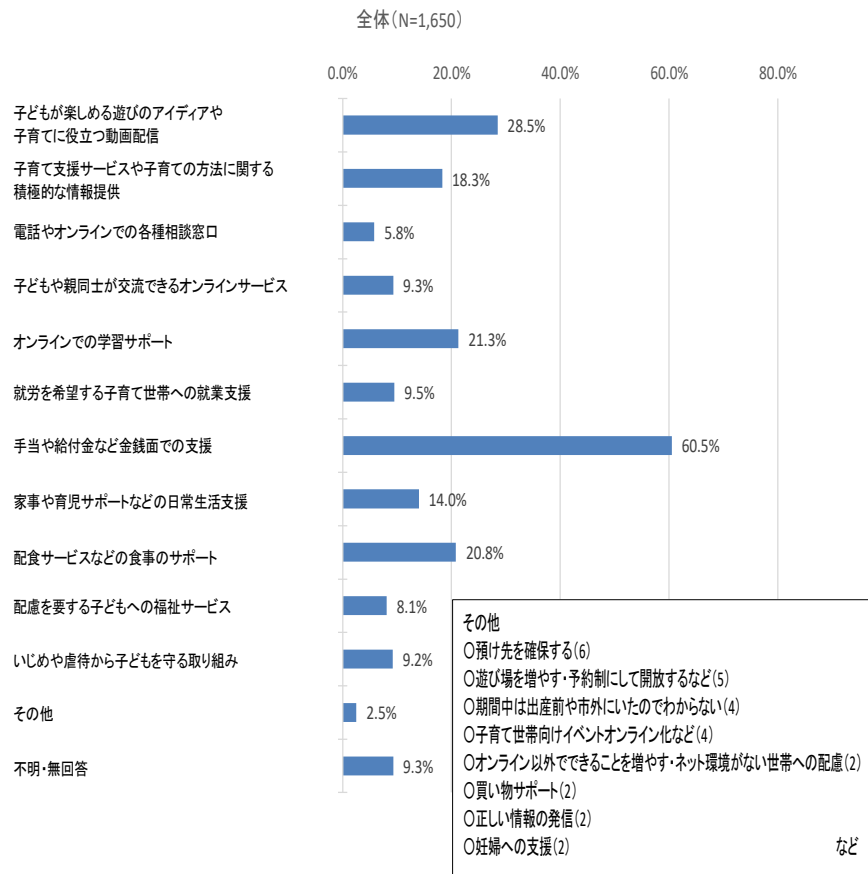
・「影響は受けていない」を除き、次いで多い回答は、「家族の時間が増えて楽しそうな様子だった」、「親族や友人に会えなくなりさみしがった」となっている。

- その他
- 産まれてすぐなどで、コロナ禍以前と比較ができない(17)
 - 子どもの成長への懸念(7)
 - できるだけ外出自粛をした(5)
 - 人見知りになった(5)
 - 気持ちが不安定であった(3)
 - 友だちと遊べない・遊ぶ機会が減った(3)
 - 太った(3)
 - 遊び場がなかった(2)
 - 風邪をひくことが少なくなった(2)
 - 家族と触れ合う機会が増えて良かった(2)
 - ストレスからチックや爪を噛んだりするようになった(2)
 - テレビ・ゲームなどの時間が増えた(2)
 - 保育園行事が中止になった(2) など

1. 子育てに関する市民アンケート調査

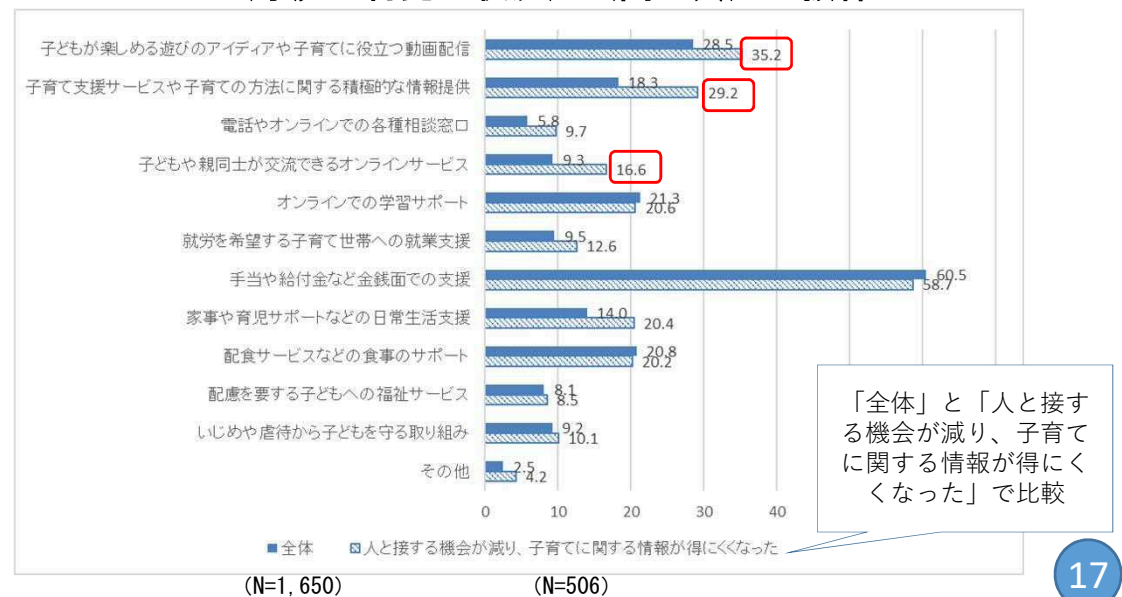
(8) 新型コロナウイルス感染症の影響④

エ 緊急事態措置等の期間、特に充実してほしいと感じた子育て支援サービス等（問25関係） 《複数回答》



- ・緊急事態措置等の期間、特に充実してほしいと感じた子育て支援サービス等は、「手当や給付金など金銭面での支援」が60.5%と最も多く、次いで「子どもが楽しめる遊びのアイデアや子育てに役立つ動画配信」、「オンラインでの学習サポート」となっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響(家庭や育児の状況)で「人と接する機会が減り、子育てに関する情報が得にくくなった」世帯を見ると、全体に比べて「子育て支援サービスや子育ての方法に関する積極的な情報提供」(+10.9%)、「子どもや親同士が交流できるオンラインサービス」(+7.3%)、「子どもが楽しめる遊びのアイデアや子育てに役立つ動画配信」(+6.7%)が多くなっている。

【クロス集計】新型コロナウイルス感染症の影響 (家庭や育児の状況) (問24(2)) 《抜粋》

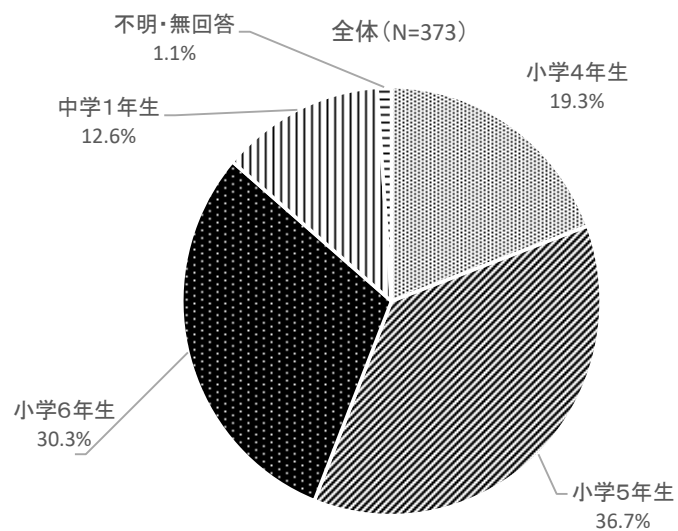


2. 子どもに関する意識調査

(1) 調査回答者の状況（問2）

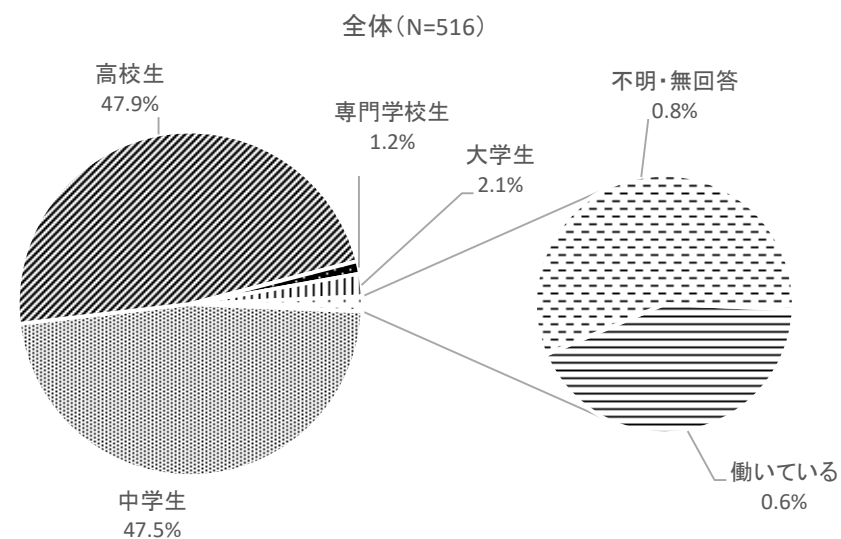
①回答者の学年（10～12歳）

・回答者数は、小学生が全体の86.3%を占めている。



②回答者の状況（13～18歳）

・回答者数は、中学生及び高校生がそれぞれ全体の約半数を占める。



2. 子どもに関する意識調査

(2) 自分自身のことについて（問5）

- ・自分自身のことについて、いずれの項目でも『思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）は6割以上の割合と高くなっている。
- ・⑦の自己肯定感については、『思う』（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）は67.6%となっている。

	サ ン プ ル 数	そ う 思 う （ a ）	そ ど う 思 ら う か と い え ば （ b ）	そ ど う 思 ら わ か な い い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答	（ a + b ） 思 う
	上段:実数 下段:割合							
① 自分を大切に思ってくれる人がいる	889 100.0	604 67.9	210 23.6	18 2.0	9 1.0	45 5.1	3 0.3	814 91.6
② 自分は人から必要とされている	889 100.0	334 37.6	314 35.3	82 9.2	41 4.6	115 12.9	3 0.3	648 72.9
③ ほかのだれかや社会のために何かをしてあげたい	889 100.0	469 52.8	316 35.5	54 6.1	13 1.5	34 3.8	3 0.3	785 88.3
④ 何かをやり遂げてうれしかったことがある	889 100.0	708 79.6	133 15.0	17 1.9	12 1.3	16 1.8	3 0.3	841 94.6
⑤ ものごとを調べたり考えたりすることは楽しいと思う	889 100.0	420 47.2	329 37.0	86 9.7	31 3.5	21 2.4	2 0.2	749 84.3
⑥ 自分の考えを聞いてもらってうれしかったことがある	889 100.0	494 55.6	260 29.2	67 7.5	29 3.3	35 3.9	4 0.4	754 84.8
⑦ 良いところばかりではないが、自分のことが好きだ	889 100.0	288 32.4	313 35.2	126 14.2	85 9.6	72 8.1	5 0.6	601 67.6

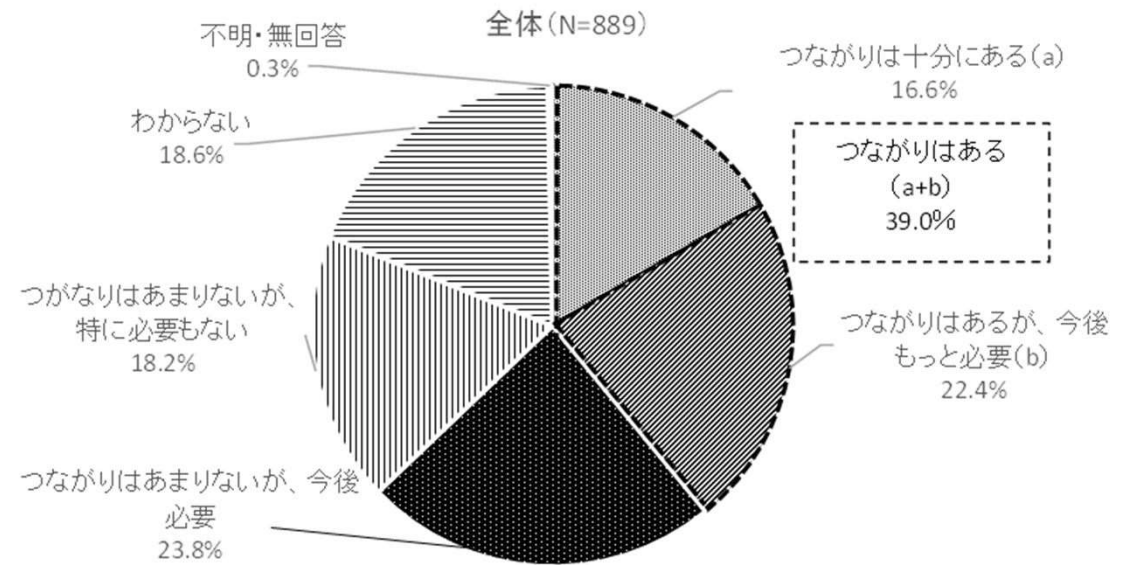
※色付きは各行について濃い順に1、2、3番目に高い値であることを示している。

2. 子どもに関する意識調査

(3) 近所や地域とのつながりについて（問7）

・近所や地域のつながりをどのように感じているかについて、全体では「つながりはあまりないが、今後必要」が23.8%と最も多く、次いで、「つながりはあるが、今後もっと必要」(22.4%)、「つながりはあまりないが、特に必要もない」(18.2%)となっている。

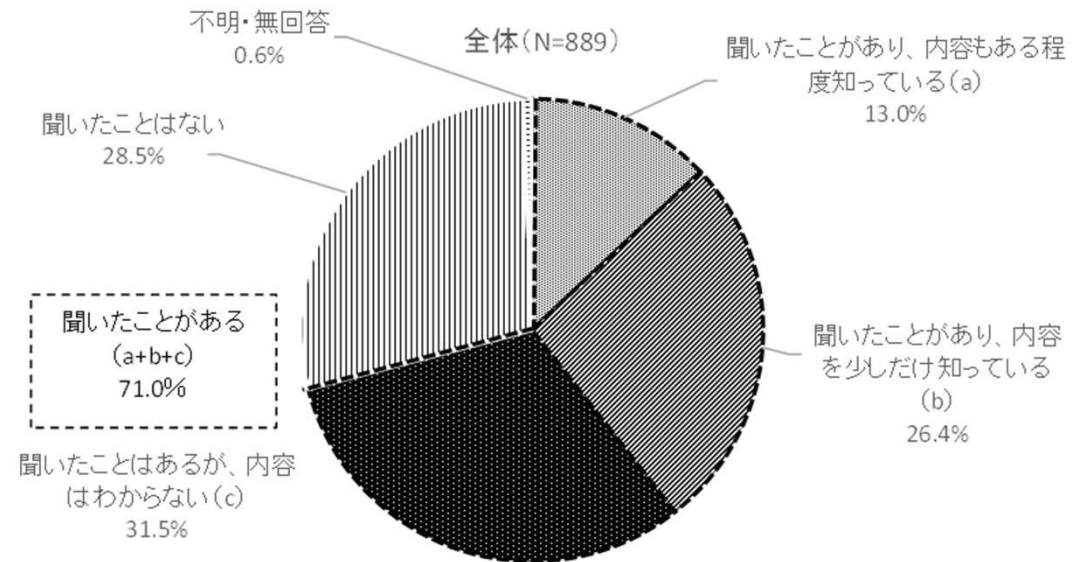
・『つながりはある』(「つながりは十分にある」+「つながりはあるが、今後もっと必要」)は39.0%となっている。



2. 子どもに関する意識調査

(4) 子どもの権利の認知度（問13）

- ・子どもの権利の認知度について、全体では「聞いたことはあるが、内容はわからない」が31.5%と最も多く、次いで、「聞いたことはない」(28.5%)、「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」(26.4%)となっている。
- ・『聞いたことがある』(「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」+「聞いたことがあり、内容を少しだけ知っている」+「聞いたことはあるが、内容はわからない」)は71.0%となっている。



2. 子どもに関する意識調査

(5) 子どもの権利が大切にされていると思うか（問15）

・子どもの権利が大切にされていると思うかについて、全体では「どちらかという大切にされている場合が多い」が34.6%と最も多く、次いで、「大切にされている場合が多い」(27.7%)、「わからない」(26.8%)となっている。

・『大切にされている』(「大切にされている場合が多い」+「どちらかという大切にされている場合が多い」)は62.3%となっている。

